

北京日本学研究中心（中国）とのジョイント教育概要

比較日本学研究中心長 森山 新

昨年度から開始された海外大学院とのジョイント教育は、今年度は9月11日から16日まで、中国・北京日本学研究中心との間で実施された。本学からの参加者は教員1名（森山）、院生6名（博士後期課程4名、前期課程2名）であった。

9月12日、9時から北京日本学研究中心でセミナーが開催された。センターからの参加者は教員（徐一平主任、白水紀子主任教授、伊藤徳也副主任、曹大峰副主任、王世斌副主任、朱桂榮先生、筑波大の砂川有里子教授）と院生、合わせて30名ほどであった。

まず開講式が行われ、まず北京日本学センター徐一平所長、本学比較日本学研究中心センター長として森山が挨拶をした。その後、「日本語教育と認知言語学：応用認知言語学の可能性」という題目で私が講演を行い、続いて、院生の研究発表が行われた。午前中は3名、午後は5名の発表があった。日本側は博士後期3年の峯布由紀さん、2年の橋本ゆかりさん、白以然さん、博士前期2年の小浦方理恵さん、石井佐智子さんが発表、博士後期の学生は自身の研究発表を、博士前期の学生は自身の修士論文の中間発表を行った。中国側は、博士課程の趙蓉さん、白曉光さん、修士の王鵬さんが発表した。

セミナー後、センターの図書館を見学した。センターの建物の1階、2階を占め、日本学関係の本が非常に充実していた。夜は教職員レストランで歓迎懇親会が開催された。

9月13日は、午前中はセンターの授業のため、セミナーは午後から開催。まず北京日本学研究中心の講師、朱桂榮先生の講演「小さな留学生への学習支援」があり、その後、日本側からは博士後期課程の王沖さん、中国側からは修士課程の夏瑞紅さん、顧秋麗さん、李静晓さんの発表があった。

9月14日は、午前中には北京日本学研究中心の修士の学生5名（李友敏さん、冉爱玲さん、贺文静さん、张金龙さん、褚福海さん）の発表があった。午後は北京日本学研究中心主催の日本学総合講座第1回講演が行われ、「総合的日本語教育と認知言語学」という題目で、森山が講演を行った。

9月15日は中国の世界遺産、万里の長城、十三陵を見学した。夕方、北京日本学研究中心の入学式があり参加。新たな修士・博士課程の院生38名の入学を祝うもので、日本大使館、国際交流基金などからも来賓があり、盛大に行われた。

9月16日、6日間のジョイントプログラムを終え、午後の便で帰国の途についた。

本来、この国際的なジョイント教育は、在学時より国際的な学術経験・視野・人脈を培うために、海外提携校と共同教育の場を提供するものである。今回は日本語教育、日本語学を専攻とする両大学の大学院生20数名が自身の研究を発表し、それについて両大学の教員と院生がコメントを行うという形式で行われ、その本来の目的にかなうものであった。参加した院生は、海外にて自身の研究を発表し、日頃指導を受けることのできない教員から助言を受ける場を与えられるとともに、海外にて志を同じくする院生たちと交流の場を持つことを通じて、自身の研究の国際性や学際性を広げるよき機会が与えられたと言える。また昨年と同徳とのジョイント教育に参加した1名の院生と今回の北京日本学研究中心とのジョイント教育に参加した2名の院生が国費留学生、または奨学金を受けての留学生として本学に留学することになり、交流の成果は着実に上がっていると言えるであろう。